

勝利宣言

指名ストライキに突入した組合員の勤務処理は、特休！
当然、賃金カットもなければ、処分などされるわけがない！
我々は、2年間も強要され続けた一方的な休日出勤をやめさせた！

J R東海労は一方的な休日出勤に対して、12月9日から、そして12月11日に関西のトップバッターが指名ストライキに突入した。この指名ストライキによって、一方的な休日出勤に指定された組合員の休日を獲得した。ここに、我々は高らかに勝利宣言を発する！

この現実を突きつけられたJ R東海経営陣とユニオン指導部は、「身勝手ストライキ」だとか「反社会的行為」などと泣き叫びながら、我々の闘いを批判している。我々の闘いを批判することを通じて、自らの経営責任と指導責任から必死に逃げようとしているJ R東海経営陣とユニオン指導部の姿は醜い限りだ。

いうまでもなく、今日まで2年間も一方的な休日出勤を強要し続けてきたのは会社経営陣である。それを許し続けているのがユニオン指導部なのである。

ユニオン指導部は、我々の闘いと、ユニオン組合員からの不満の声に驚き、あわてふためき「休日勤務解消は我がJ R東海ユニオンが責任をもって担う。」などと言っているようだが、なにをいまさらである。まして、やっていることは組合員への我慢の強要だけではないか。

会社経営陣は、いつまで「解消のスタンス」といいつづけるのか。会社経営陣がやらなければならないことは、はっきりしている。それは、必要な要員確保と休日出勤の強要をやめることである。そして、ユニオン指導部がやらなければならないことも、はっきりしているのである。それは、組合員への一方的な休日出勤をやめさせることである。我々J R東海労を批判する前にやるべき事をやればよいのである。

我々はJ R東海労は組合員への一方的な休日出勤をやめさせた。そして、一方的な休日出勤を許さないための指名ストライキを、組合員とともに全力で貫徹する！

さあ！ユニオン指導部のお手並み拝見といこうではないか！

2005年12月14日
J R東海労新幹線関西地本闘争委員会